

スタンダード研究会会報 特別号

ヴィクトール・デル・リット先生追悼特集

2004 10.25

目 次

追悼		
・ 「Del Litto 先生追悼」(鈴木 昭一郎)	…	1
・ 「デル・リット氏御葬儀に参列して」(粕谷 祐己)	…	3
関連記事一覧 (杉本 圭子)	…	4
後記 (杉本 圭子)	…	5

去る8月9日、スタンダード研究の泰斗、ヴィクトール・デル・リット先生が93歳で亡くなりました。その死を悼み、生前の氏と深い親交を結んでおられた鈴木昭一郎先生、そして8月12日のグルノーブルでのご葬儀に参列された粕谷祐己先生に、追悼の辞をお寄せ頂きましたので、ここに掲載いたします。

(杉本圭子 記)

【追悼】

2004年9月20日

DEL LITTO 先生追悼

鈴木 昭一郎

往時は渺茫として夢のごとく儚い。Stendhal は *La Vie de Henry Brulard* で言う。

J'aurais peut-être dû placer ce détail bien plus haut, mais je répète que pour mon enfance je n'ai que des images fort nettes, mais sans *date* comme sans *physionomie*. (Chapitre 21)

私も儚い、年月もさだかでない、しかし鮮明な images だけで書く。ある年の夏、私は Del Litto 先生の運転で、Grenoble の北東 39km、Grésivaudan の谷間の町、Allevard にむかっていた。12世紀からの鉱泉で、13 - 14世紀からは鉱山の町としても知られている。先生の愛犬、老シェパードのロッキーもいっしょであった。読者は58歳の Stendhal が Civitavecchia で犬を飼っていたことをご存知であろう。彼は Romain Colomb にあてて 1841年6月19日に書く。彼の死は翌年3月23日である。

J'ai deux chiens que j'aime tendrement ; l'un, noir, épaneul anglais, beau, mais triste ; l'autre, *Lupetto*, café au lait, gai, vif, le jeune Bourguignon, en un mot ; j'étais triste de n'avoir rien à aimer.

Del Litto 先生は、triste de n'avoir rien à aimer ではなかった。Grenoble ではお一人であったが、奥様は Allevard のホテルで療養中で、先生と私は、そこへお見舞いに行くところであった。

Del Litto 夫人の窓外、療養ホテルの裏庭は一面の丘で、そこに一匹の野兎が見えた。私は、あがってしまい、いつになく多弁になり、その野兎のことを話

したと思う。

昼食は療養ホテルの食堂で、Del Litto 先生と私と二人であった。その食卓で、私は始めて、奥様が秘蔵しているマルク・ポスタル Marques postales のコレクションを貰ってやってくれ、というお話を聞いた。まだ封筒というものが用いられず、郵便切手が実用化されるまで、手紙はすべて発信人が宿駅の駅長のところへ持参し、駅長は折りたたんで封をしたその手紙の宛名面に受付けたというサインをした、その手紙二千数百通のコレクションであり、この稀有な文化財は、現在、京都大学中央図書館に収められている。療養ホテルの表の駐車場は、一面のクローバーでおおわれていた。Del Litto 夫人は、私たちをそこまで送って出て、私たちが車にのりこむのを見ながら、ふとかがみこんで私を呼んだ。その手には四葉のクローバーがあり、それを私に下さりながら、「意外にたくさんあるのよ」と言われた。それが私の奥様を見た最後であった。

Del Litto 先生は 1911 年 1 月 1 日の生まれ、亡くなったのは 2004 年 8 月 9 日、93 歳であった。お墓は Grenoble のほぼ真南 60km、国道 75 号線にそう Monestier-en-Clermont から更に西の山中、海拔 1250m の Gresse-en-Vercors にある。私はそのお墓を、先生の生前から、書斎の壁にかけられた小さな写真で知っていた。比較すべきものが写っていないのでよく分からないが、かなり大きな花崗岩の、むかって右半分は tailler されて Del Litto 夫人の名が刻まれ、左半分は原石のままで、ただ十字架がひとつ彫られていた。「一年のうち三分の二は雪に埋もれる山の中」だと、先生は言われた。

その Vercors 高原の一角 Saint-Nizier-du-Moucherotte の展望台へ、先生にご案内いただいたことがあった。1000 メートル近い高度差で、南西から Grenoble を見下ろす展望台である。断崖にそって車を走らせながら、とあるカーブで Del Litto 先生は言われた。

「Jean Prévost は、町へ連絡に出ようとして、ここで独軍の機関銃にやられたのです。この点検も小銃と手榴弾では守りきれなかった。それに彼も不用意だった。」小説家・評論家 Jean Prévost (1901-44) は、ご存知のように *La Création chez Stendhal* の著者である。そして Del Litto 先生も、ご自身では話されなかったが、この Vercors 高原で、レジスタンスの一員として闘っておられた。先生は当時 34 歳であったはずである。8 月 13 日付けの *Le Monde* は先生の生涯と業績について述べ、レジスタンスと *Mai 68* に関して次のように書いている。

Discret sur sa vie, sur sa participation à la Résistance dans le Vercors notamment, Victor Del Litto avait montré, en tant que doyen, une certaine sympathie pour le mouvement étudiant en mai 68.

先生の不朽の学位論文 *La Vie intellectuelle de Stendhal* は 1959 年の出版である。

デル＝リット氏御葬儀に参列して

粕谷 祐己

8月9日のヴィクトル・デル＝リット氏御逝去の報を受け、12日の御葬儀当日の朝急遽グルノーブルに向いジャン＝イヴ・レセ氏宅に着くと、ちょうどセルジュ・リンケス氏一家も滞在中でレセ氏、リンケス氏とともに会場の Centre funéraire intercommunal à La Tronche に向いました。ヴァカンス中であり来られない方も多かったようで参列者は80名くらいだったでしょうか。スタンダール研究者でわたくしの存じ上げている方としてはジェラルド・ラノー氏夫妻、カトリーヌ・マリエット氏、フランシス・クロードン氏、他にグルノーブル市立図書館のアンベール氏などのお顔が見え、13時45分の葬儀開始に少し遅れてベアトリス・ディディエ氏も到着されました。

最近はフランスでも女性の宗教界進出が始まっているようですが、デル＝リット氏の葬儀もカトリック教会の地区責任者という肩書の女性の主導で淡々と進められました。

グルノーブル市、ドーフィネ作家連盟代表者からの弔辞のあと、ラノー氏がスタンダリアンを代表して故人の遺徳をしのび、「ソルボンヌの教授職につくべき業績がありながら、あえてそれを望まずグルノーブルにとどまった」デル＝リット氏との長い交流をふりかえっておられました。

最後にデル＝リット氏の御子息ダニエル氏が「大木が倒されても、それはその木の死を意味しません」という言葉に始まる短い、しかし印象的なスピーチを述べられ、ご父君への最後の挨拶とされました。

葬儀の後デル＝リット氏の棺は Gresse-en-Vercors の墓地に向けて出発しました。スタンダールの墓所近くへの埋葬を望まれるのではという噂もあったそうですが、永遠の眠りの地に選ばれたのもグルノーブルでした。

【関連記事一覧】

鈴木昭一郎先生も上記の追悼文の中で言及しておられましたように、8月9日のご逝去の直後、デル・リット氏を悼む訃報記事が、『ル・モンド』をはじめとするフランスの主要紙に次々と掲載されました。会員の皆様やフランスの研究者の方々からそのうちの一部のコピーをお寄せいただきましたので、紙名と見出しのみ掲載します。

(杉本圭子 記)

- **La Croix**, mercredi 11 août 2004 :
«Le monde des lettres perd le grand spécialiste de Stendhal.»
- **Le Figaro**, jeudi 12 août 2004 :
«Disparition : Victor Del Litto.»
- **Le Monde**, vendredi 13 août 2004:
«Disparitions : Victor Del Litto, grand spécialiste de Stendhal», par Patrick Kéchichian.
- **Dauphiné libéré**, vendredi 13 août 2004 :
«L'hommage à Victor Del Litto: Grenoble. C'est dans le recueillement que le professeur Victor Del Litto a été conduit hier à sa dernière demeure. Une cérémonie religieuse s'est déroulée au centre funéraire intercommunal de la Tronche, suivie de l'inhumation au cimetière de Gresse-en-Vercors.»

【後記】

半世紀にわたってスタンダール研究を率いてこられたデル・リット先生が亡くなられました。その悲報をひとつの時代の区切りとして、深い感慨をもって受けとめられた会員の皆様も多くおられたことと思います。ご葬儀の直後には鈴木昭一郎先生が研究会を代表し、氏の令息 Daniel Del Litto 氏にお悔やみのフックスを送っていただきました。

氏の「同僚」として親交を深められた方、直接氏の薫陶を受けた方、主にその膨大な著書を通じて氏の学識に触れた方など、世代によってその接し方は少しずつ異なるとは思いますが、氏の手がけたスタンダールのテキストの校訂版および厳然たる実証主義に基づく研究書が、ひとつの文化遺産として私たちの前に立ち現れていたことは確かであり、今後ともそうありつづけることでしょう。心より冥福をお祈りいたします。

*

5月末の研究会例会以来、会員の皆様に論議していただいた結果、研究会のフランス語正式名称を次のように決定いたしました。

Société japonaise des études stendhaliennes.

ご了承いただき、今後は上記の名称をご採用いただけますと幸いです。

（杉本 記 cypresdujapon@mpd.biglobe.ne.jp）